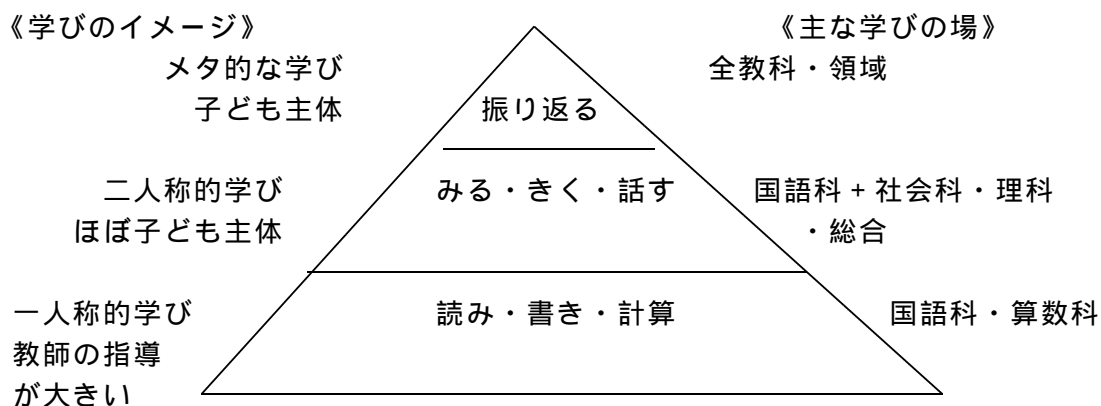


## 学びの基礎・基本について



### みる・きく・話す・ふりかえると四観点の関連

#### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

(小) 社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、社会の一員として自覚をもって責任を果たそうとする。

(中) 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。

「みる・きく・話す」は、「読む」「書く」以上に関心・意欲があつてこそ成り立つ能動的な学びである。そうした関心・意欲は「みる・きく・話す」態度になって表れる。

#### 【社会的な思考・判断】

(小) 社会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的事象の意味を考え、適切に判断する。

(中) 社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断する。

「みる・きく・話す」は、「読む」以上に多様な学習活動による情報の獲得行為である。その情報から、思考・判断し、その結果を「書く」「話す」で表現する。

#### 【観察・資料活用の技能・表現】

(小) 社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりするとともに、調べたことを表現する。

(中) 平素から各種の資料に親しみ、社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。

「観察」「調査」: まさに「みる」「きく」力が必要である。

「資料活用の技能」: 収集資料を「みる」ことにより活用が始まる。

「表現」: 「書く」「話す」を基本として、多様な表現が生まれる。

#### 【社会的事象についての知識・理解】

(小) 社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

(中) 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

「知識」: 「みる・きく・話す」活動を駆使して得られた概念。

「理解」: ある知識が他の知識と関係づけられて、構造的につかめていること。

